

## (令和元年度第2回食育推進評価専門委員会)

### 第4次食育推進基本計画作成に向けた論点(案)についていただいた主な御意見

#### <家庭における食育の推進>

○核家族化が進行している中で、家族が集まる機会が少なくなっている。一緒に暮らす家族のみならず離れた家族や様々な年代の家族が集まって一緒に食事をすることで、食べ方や人とのつきあい方なども学ぶことができる。こういったことを充実させていく形ができるとよい。

#### <学校、保育所等における食育の推進>

○第3次基本計画中、学校が担う数値目標、朝食欠食ゼロ、地場産物の活用は30%以上、国産食材活用80%以上が達成できていないが、第4次基本計画策定の前に本当にこの指標だけで学校における食育を評価していいのか疑問。

学校給食現場における食育について非常に多岐にわたる取組がされている中で、学童期、思春期における食育の重要性を踏まえ、子供たちの食に関して、どう意識が変容し、どういった力がつき、何ができるようになったかということを探るような目標の設定もあったらよい。

○児童生徒における食育推進状況調査の結果から、栄養教諭、学校栄養職員が配置されているところで食育成果が上がっており、非常に大事。

○食事のためにどれくらいの手間や時間を費やすのかについて、「手間」という表現については、若者にとって重たく感じるため、現実を踏まえた表現にできないか。

○学校関係の数値目標についての意見が出されているが、「子供の実践」を測る観点から、全国学校養士協議会のデータは非常に貴重。

○食べ方や文化、薄味や子供の味覚、食べ方を育てるためにも、いろいろなことに取り組んでいる保育園やこども園はたくさんある。乳幼児期の食育が大事。

○幼児期も野菜の収穫、ピーラーで皮を剥いたり葉を指先でちぎるなどの体験はいろいろできる。主体的な成長を育むためにも、教え込むのではなくて体験させることが必要。

#### <地域における食育の推進>

○様々な災害、世界的な規模での気候変動により日本の食料自給率が低下したり、輸入も必要量を確保できなくなるかもしれないことに危機感を感じる。農畜産物が自然の恩恵の上に成り立っていることに関心を持ってもらえるような記述が必

要。

○食べ方などの食習慣や口腔機能の基本を獲得する乳幼児期の食育の取組は欠かせない。

○若い人や働き盛りの人が働いている企業の方々に、食育を推進する意義や具体的なメリットが伝わると、取組に変化があるのではないか。

機会があれば、代表的な企業が従業員等に対する食育をどう考えているのかについても調査していただきたい。

○企業が共食に取り組めるよう、具体的な効果やメリットについてのエビデンスの蓄積が必要。

○「地域における食育の推進」は、栄養バランスや健康寿命の延伸に関する取組であるが、生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農林水産業の活性化等に関する取組と一緒に進めなければいけない時代になっている。第4次基本計画に向けては、一つ一つの項目を超えた形での取組や目標の設定などが必要。